

日本建築学会北海道支部
2020年度 通常総会

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、本通常総会は中止となった。
本資料は、AIJ北海道支部HP上に掲示したものである。

日時 2020年5月22日(金)
会場 北海道建設会館

日本建築学会北海道支部

日本建築学会北海道支部 2020 年度総会議案

I 2019 年度事業報告

本資料に記載される「1. 支部運営の諸会合の開催～10. 建築関連団体との活動」(例年と同様)の事業を行った。

2022 年度の建築学会大会は、北海道で開催することが決定した。このため、「AIJ 大会 2022 会場検討 WG」を設置し、北大や他大学で実施の可能性と問題点を検討した。

1. 支部運営の諸会合の開催

◆ 総会

期日 2019 年 5 月 17 日
会場 北海道建設会館
出席正会員 48 名 (委任状 16 通)

当支部地域在住正会員 841 名の 30 分の 1、28 名以上の出席により成立。

2018 年度事業報告及び収支決算、ならびに 2019 年度事業計画方針案及び予算案の報告が行われた。

◆ 支部役員会

4 回開催(通信支部役員会含)

◆ 常任幹事会

5 回開催

◆ 選挙管理委員会

1 回開催

2. 学術系委員会の活動

2. 1 学術委員会 (主査：岡本 浩一，委員数：13名，委員会開催数：4回)

本委員会では、本部学術推進委員会の情報を各専門委員会および特定課題研究委員会に伝達するとともに、各専門委員会・研究委員会から企画及び活動の報告を受けた。また、支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認、特定課題研究の推薦、建築文化週間事業企画および道内工業高校巡回講演会講師派遣について議論し決定した。また、北海道支部技術賞の募集および技術賞選考委員会の設置に基づいて表彰技術候補の選考を行なった。2019 年度の支部研究発表会において「技術パネル展示」を開催した。各活動の詳細は以下の通り。

(1) 研究補助金

・特定課題研究委員会

農漁村地域づくり研究委員会「北海道の農漁村地域づくり計画の構築に関する研究」

主査：柳田 良造 君 2020-21 (新規)

・本部からの支部助成金による研究委員会

「北海道沿岸部に現存する戦争遺跡、ならびに関連資料に関わる調査研究」

主査：西澤 岳夫 君 2019-2020

(2)北海道支部技術賞選考部会

2019 年度支部技術賞は、下記 1 件の応募 (応募順・技術名のみ記載) があった。

木質建材 C L T の有効活用技術の開発

－蝶形 C L T 成形加工技術の構築と耐震補強技術への適用－

上記の応募について、「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」の 3 つの観点

に基づいて選考を実施した。各観点に関する質疑・確認について追加資料の提出を願った。COVID-19の感染拡大防止のため選考委員による投票はWebで実施した。表彰候補該当なしとの結論に至った。

(3)建築文化週間事業

2019年度 事業として以下の2つの催事を実施した。

- ・見学会「石炭のまち三笠の足跡を巡る」：歴史意匠専門委員会

2019年10月12日に実施、参加人数41名。三笠市立博物館において炭鉱での仕事・まち・暮らしなどについて解説を受けた後、旧幾春別炭鉱錦坑、旧住友別炭鉱、旧北炭幌内炭鉱を見学した。

- ・「くしろ防災屋台村」：都市防災専門委員会

2019年10月26日に釧路市こども遊学館にて実施、参加人数278名。

(4)支部研究発表会 技術パネル展

2019年度の支部研究発表会（会場：札幌市立大学芸術の森キャンパス）において技術パネル展を開催した。5団体から、構造、材料施工、環境工学、計測機器などに関わる技術パネルの出展があった。昼食休憩時間に合わせてパネル発表の時間枠を設け、盛会に終了した。（2018年度より、支部技術賞を受賞された個人/団体に、翌年度の支部研において技術パネル展への出展も研究発表同等と扱うこととしている。）

(5)支部公式ウェブサイトのシステム・コンテンツ更新

2017年度に開始した次の取組みが実施された。支部ホームページ管理委員会と連携し、各専門委員会を構成する委員名簿ならびに活動計画を掲載。掲載および更新の時期は、総会終了後。

(6)道内工業高校 巡回講演会への講師派遣

・留萌高等学校電気・建築科に、都市計画専門委員会 岡本 浩一 君（北海学園大学）を派遣し、講演「地域まちづくりと研究室」（2020年3月11日）が実施予定であったが、COVID-19の感染拡大防止のための休校措置により中止した。

・苫小牧工業高等学校建設科に、北方系住宅専門委員会 真境名 達哉 君（室蘭工業大学）を派遣し、講演「北のすまい～その特徴を広い視野から考えよう～」(2020年2月10日)を実施した。

参加者 35名

<今後の予定：担当専門委員会>

- ・2020年度：材料施工専門委員会，建築計画専門委員会
- ・2021年度：歴史意匠専門委員会，都市防災専門委員会
- ・2022年度：構造専門委員会，環境工学専門委員会
- ・2023年度：都市計画専門委員会，北方系住宅専門委員会

2. 2 専門委員会の活動

◆ 材料施工専門委員会（主査：杉山 雅，委員数：21名，委員会開催数：3回，見学会2回）

2019年度は、専門委員会（メール審議）を3回開催した。委員会では、本部材料施工本委員会などの各種委員会報告や諮問事項について検討し、材料・施工に関する情報交換を行った。

現場見学会は、2019年12月4日（水）に構造専門委員会と都市防災専門委員会と共催で「大同生命ビル再開発プロジェクト新築工事現場（札幌市中央区北3西3）」において実施し、42名の参加があった。また、2019年8月7日（水）に同様の共催で、「北海道議会庁舎改築工事現場（札幌市中央区北2西6）」において実施し、22名の参加があった。

◆ 構造専門委員会（主査：植松 武是，委員数：22名，委員会開催数：2回）

委員会の主な活動は次の通りである。

1. 構成委員数 22名
2. 委員会開催数2回（都市防災専門委員会と合同で開催）、幹事会に替えてメール審議
3. 講演会（1回）

講演者：与那嶺 仁志 氏（アラップジャパン）

講演名：アラップにおけるトータルデザイン

出席者：学会員20名、学部学生58名、大学院生8名、教員8名、合計94名

4. 現場見学会（2回）

1) 「北海道議会庁舎改築工事現場見学会」

参加者：学会委員2名、社会人・学生20名、合計22名

2) 「大同生命ビル再開発プロジェクト現場見学」

参加者：学会委員・社会人8名、学生34名、合計42名

◆ 環境工学専門委員会（主査：桑原 浩平，委員数：16名，委員会開催数：2回）

1) 第1回委員会（10/29，札幌市立大学サテライト，参加者7名）にて，北方建築総合研究所の下ノ菌慧委員に「科研費（若手研究）：温度差還気を採用する高層建物の自然換気口開閉制御法—新たな開放率制御の構築—」に関して発表頂き，最新の研究動向を把握した。

2) タギ邸（旧荒谷邸）にて北方系住宅，建築計画委員会と共催で見学会を開催した（1/25）。

3) 第14回環境工学系・卒業論文発表会（EGGs'19）を企画し，原稿とりまとめ（演題32題，発表者44名，特別講演1題）までを行ったが，3/5の札幌市立大学サテライトでの発表会は，新型ウィルス感染拡大を懸念し中止した。

◆ 建築計画専門委員会（主査：谷口 尚弘，委員数：11名，委員会開催数：1回）

構成委員数11名で，委員会開催数1回，公開研究会1回，住宅見学会1回を開催した。本年度もこれまでの活動実績を踏まえつつ，公開研究会を最終成果とする勉強会・見学会を催した。今年度の公開研究会のテーマは「職場・公共空間のダイバーシティを問う～マイノリティが働きやすい環境を考える～」で84名もの参加があり，高い関心があることが分かった。次年度以降も，社会事象に沿ったテーマを取り上げたいと考えている。

◆ 都市計画専門委員会（主査：岡本 浩一，委員数：13名，委員会開催数：4回）

活動の内容：胆振東部地震に伴い発生したブラックアウトに関して，2018年度末に実施したWebアンケート調査（対象：建築学会北海道支部所属会員）をとりまとめ，支部研究発表会特別企画において集計分析結果の抜粋を報告した。建築計画専門委員会と協働の取組みである。また，2016年度から継続している連続企画「わたしの職能」について，新委員の森朋子氏を講師に迎え開催し24名が参加した。当専門委員会委員が順に講師となり，業務や研究から得られた知見や問題意識あるいは実践例を題材に，若手から専門家まで広く情報や意見の交換をおこなう企画である。全13回に延べ220名が参加した。所属別内訳は，学生37名，行政42名，民間60名，委員81名である。

◆ 歴史意匠専門委員会（主査：西澤 岳夫，委員数：18名，委員会開催数：3回，通信審議：1回）

道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め，保存・活用等に関して委員相互の情報交換を行い，必要に応じて学会として社会や住民に貢献する体制を整え活動した。具体的には，まず建築文化週間事業として見学会「石炭のまち三笠の足跡を巡る」（10/12，参加者41名）を開催した。その他，三笠市からの委託研究や特定課題研究の一環として十勝沿岸部に遺残するトーチカの現況調査を行った。

◆ 北方系住宅専門委員会（主査：立松 宏一，委員数：11名，委員会開催数：1回）

1) 2007年から継続的に実施し今年度で12回目となる住宅見学会・意見交換会をタギ邸（旧荒谷邸）にて開催した（1/25，参加者18名，建築計画専門委員会，環境工学専門委員会と共催）。

2) 道内工業高校巡回講演会に講師を派遣し，「北の住まい」に関する講演を行った（2/10，講師：真境名達哉幹事，対象：苫小牧工業高校建築科2年生）。

3) 委員会を開催し，北方系住宅に関する話題提供及び意見交換，各委員との情報交換を行った。

◆ 都市防災専門委員会（主査：麻里 哲広，委員数：17名，委員会開催数：2回，
通信委員会開催数：4回）

都市防災専門委員会では、2019年6月28日に1回目の、12月20日に2回目の委員会を、それぞれ構造専門委員会と合同で開催した。また、材料施工専門委員会および構造専門委員会と3委員会合同で12月4日に現場見学会を実施した。また、10月26日（土）に釧路市で開催された第10回くしろ安心住まいフェア（主催：北海道釧路総合振興局）において建築文化週間事業「くしろ防災屋台村」を出展し、一般住民の防災意識向上や地域の防災力向上に対する支援活動を行った。

2. 3 特定課題研究委員会の実施

該当なし

2. 4 本部からの支部助成金による研究委員会の実施

(2019年度より)

◆ 北海道沿岸部戦争遺跡調査研究委員会（主査：西澤 岳夫，委員数：5名，委員会開催数：3回，通信審議：1回）

本研究は、北海道沿岸部における戦争遺跡、主に昭和19年から20年にかけて築造されたトーチカの現存状況を把握、記録することを目的とする。令和元年度は、広尾町から豊頃町にかけて3回の現地調査を行い36基の現存を確認した。調査結果は地形図に各点をプロットするとともに、①GPSによる位置情報、②過去の状況と比較しての所見、③記録写真を台帳にまとめ、このうち3基について実測図を作成した。

3. 委託調査研究の受託

契約年月日	委託調査研究名	担当委員会（代表者）	委託者
2019.9.20	令和元年度三笠市炭鉱遺産調査及び図面調査業務委託研究	歴史意匠専門委員会 (主査 西澤 岳夫)	三笠市

4. 支部研究発表会の実施（主査：千葉 隆弘，実行委員会委員数：16名，委員会開催数6回）

開催要領

日本建築学会北海道支部 第92回研究発表会

日時：2019年6月29日（土）

場所：札幌市立大学（札幌市南区），ホテルライフオーソ札幌（札幌市中央区）

参加者数：約160名

実行委員会委員

主査：千葉隆弘（北海道科学大学）

幹事：羽深久夫（札幌市立大学）

委員：

構造専門委員会 / 千葉隆弘（北海道科学大学），高瀬裕也（室蘭工業大学）

材料施工専門委員会 / 足立裕介（北海学園大学），伊東敏幸（北海道科学大学）

環境工学専門委員会 / 斉藤雅也（札幌市立大学），魚住昌広（北海道科学大学）

建築計画専門委員会 / 谷口尚弘（北海道科学大学），福田菜々（北海道科学大学）

都市計画専門委員会 / 片山めぐみ（札幌市立大学），森朋子（札幌市立大学）

歴史意匠専門委員会 / 金子晋也（札幌市立大学），西澤岳夫（釧路工業高等専門学校）

都市防災専門委員会 / 戸松誠（北方建築総合研究所），高瀬裕也（室蘭工業大学）

北方系住宅専門委員会 / 立松宏一（道総研建築研究本部），谷口尚弘（北海道科学大学）

実行委員会開催スケジュール

2018年12月末：建築雑誌会告入稿
2019年1月：建築雑誌会告
2019年2月：第1～3回実行委員会メール審議，論文投稿用HP作成
2019年3月13日：論文募集開始
2019年4月11日：論文投稿締切
2019年4月下旬：第4回実行委員会（プログラム編成，メール審議）
2019年5月：プログラム校正
2019年6月中旬：CD発送
2019年6月中旬：第4、5回実行委員会メール審議
2019年6月29日：支部研究発表会
2019年7月上旬：第6回実行委員会メール審議

研究発表会

論文題数：104編（A原稿：83編，B原稿：14編，C原稿：5編，D原稿：2編）

優秀講演奨励賞

材料施工：丁振朝（室蘭工業大学）
構造：奥山裕希恵（室蘭工業大学），窪田凌平（室蘭工業大学）
環境：梶田芙美子（北海道大学）
計画：池田昇太郎（北海道大学），安田穂乃香（北海道大学）
歴史・意匠：高橋京士（北海道職業能力開発大学校）

特別企画

パネルディスカッション 「災害から新たなまちづくりへ」
コーディネーター：羽深久夫（札幌市立大学）
パネリスト：西村幸夫（神戸芸術工科大学）
飯場正紀（北海道大学）
岡田成幸（北海道大学）
主旨説明：羽深久夫（札幌市立大学）
司会：山田良（札幌市立大学）
会場：ホテルライフオーブ札幌 4階 アニマート
参加者数：約80名

懇親会

会場：ホテルライフオーブ札幌 4階 アニマート
会費：一般=5,000円，学生=2,000円
参加者数：43名（一般30名、学生13名）

5. 表彰

5. 1 北海道建築賞

(1) 北海道建築賞委員会（主査：加藤 誠，委員7名 委員会開催数3回現地審査3回）

本委員会は1975年、北海道支部に報奨制度が設けられて以来、道内に建てられた建築（アーバン・デザイン等の領域も含む）の中から本賞・奨励賞にふさわしい作品を選考しており、2019年度で44回目となった。選考においては作品の有する「先進性」「規範性」「洗練度」の3つの視点を基本的な評価軸としている。本委員会は7名で運営しているが、今年度は委員が応募作品に関与した作品があったため、主査判断により当該委員を途中より除いて6名による選考を行った。

今年度は4月15日（月）の応募開始から10月25日（金）の表彰式および受賞記念講演会まで、以下に示す一連の活動を通して第44回北海道建築賞を実施した。

4月25日（木）：第1回委員会 審査方法・スケジュール等の確認。

5月20日（月）：第2回委員会 応募13作品が審査対象作品となることを確認。書類審査によ

って現地審査対象作品として5作品を選定。

7月18日(木)：第1回現地審査「当麻町役場」(当麻町)

8月20日(火)：第2回現地審査「カトリック東室蘭教会」(室蘭市)

8月21日(水)：第3回現地審査「札幌市円山動物園ゾウ舎」(札幌市)、「重箱の家(ちょうそう)」(札幌市)、「札幌創生スクエア」(札幌市)

8月21日(水)：第3回委員会 現地審査を踏まえて最終選考を行い、以下の結果となった。

・北海道建築賞「重箱(ちょうそう)の家」(堀尾浩君/堀尾浩建築設計事務所)

・北海道建築奨励賞「カトリック東室蘭教会聖堂」(山田深君/室蘭工業大学)

10月25日(金)：表彰式・受賞記念講演会、記念パネルディスカッション。北海道大学遠友学舎にて開催。建築文化週間の行事でもあり、一般市民、学生、大学関係者、建築業界関係者など約70人が参加した。

審査員

主 査：加藤 誠

委 員：石塚和彦、植田 暁、小澤 丈夫、河合 有人、斉藤 雅也、佐藤 孝

(2) 受賞者

◆北海道建築賞

堀尾 浩 殿(堀尾浩建築設計事務所)

作品名—「重箱(ちょうそう)の家」の設計

◆北海道建築奨励賞

山田 深 殿(室蘭工業大学)

作品名—「カトリック東室蘭教会聖堂」の設計

(3) 審査経緯・結果

委員7名のうち6名が入れ替わった今年度の委員会において、応募のあった13作品について例年通り「先進性」「規範性」「洗練度」を基本的な評価軸としつつ、書類審査によって選ばれた5作品の現地審査を経て、北海道建築賞として重箱(ちょうそう)の家(堀尾浩君/堀尾浩建築設計事務所)、北海道建築奨励賞としてカトリック東室蘭教会聖堂(山田深君/室蘭工業大学)を選定した。

北海道建築賞を受賞した「重箱(ちょうそう)の家」は、薪ストーブを生かして上昇気流を促す入れ子状の断面計画、内部と外部を複数の境界で緩やかにつなぐ平面計画によって全体の骨格をつくり、そこに自身が磨き上げてきた環境技術やローテク素材、職人技術を生かしたディテールなどを柔軟に掛け合わせることで、時間の移ろいととも外の様子を感じることができる作品である。外壁面積と開口部面積を抑えた暖房負荷削減の手法を踏襲しつつ、季節の光や風を効果的に取捨しながら空間全体に光ムラ、温度ムラを作り出し、生活の居場所を選択するきっかけを生みだしている。冬の厳しい北海道ではリスクを伴う挑戦でもあるが、新しい開放性に向けての試みとして高く評価された。

北海道建築奨励賞を受賞した「カトリック東室蘭教会聖堂」は、非常に厳しい建設コスト条件の中で豊かな空間体験が作りだされた。合理的な架構システム、少ない開口部による十分な明るさ、効果的に光を反射する天井形状、対流を生み出す断面形状と気積の確保といった様々な要素を統合するために、十字形平面を採用してすべてを解決する手法がとられている。その結果無駄なものはぎとられ、光が作り出す抽象的な内部空間となった。一方利用者の減少や高齢化が進むなかで、地域開放の可能性を排除しなかったことが高く評価された。

第44回を迎えた北海道建築賞は、日本建築学会各支部の建築賞の中で最も早くに創設されたものであり、地域性を意識した北海道ならではのものである。長い年月にわたって「北海道の現代建築」を位置付ける機軸を担ってきたことは確かであろう。今後も多くの意欲的な作品が応募されることを期待したい。

(文責：加藤 誠)

(4) 審査講評

◆ 北海道建築賞 「重箱（ちょうそう）の家」

札幌市円山動物園界隈の幹線道路から山側に折れ、緩やかな坂道を 70m ほど奥に進む。地形を生かし、樹齢の長さを感じさせる庭木を相互に借景する、ゆったりとした住宅地の角地に、重箱の家が現れる。

本作品は木造 2 階建である。その外周は 3 辺を敷地境界線に、1 辺を敷地内に入り込んだ斜面の等高線に合わせている。2 辺は「下屋」と外部の部屋のような「外間」という性格の異なる 2 つの深い軒下空間を生み出し、その内側に正方形に近い平面をもつ屋内空間を形成している。

屋内空間は吹き抜けとスキップフロアによる構成で、収納やサンタリー以外に閉鎖的な部屋がない。吹き抜けが 1 階の「広間」の上部や、室内と外気を隔てる 4 周の壁に沿って天井に至る。一方、床の高さが異なり腰壁のみを配した 2 つの「スペース」が中間階を形成し、箱状に壁を巡らせた 2 階の「小部屋」を挟む。この小部屋は 4 周の壁から離れて吹き抜けに囲まれ、広間の上に張り出す。床に無垢のフローリング、壁に珪藻土を用いた反面、外装にトドマツ材や木毛セメント板、内装にラワン合板や合成樹脂の中空板など、質素とされる類の素材も巧みに扱う。合板の木目を出隅で連続させ、板材を目透かしで納め、釘頭を隠すなどの繊細な配慮が高い洗練度を後押ししている。

本作品の屋内で夏の審査の際に実感し得た、緩やかな空気の流れと涼しさは、控えめな開口部とトップライトの適切な配置による効果である。冬場の主暖房は、平面の中心から 4 尺半ほど北に偏芯し、小部屋の真下に設置した薪ストーブ 1 台による。設計者はその放射熱を小部屋の床に当て、4 方の吹き抜けに分散させ、上昇気流により屋内全体を穏やかに暖める仕組みを考案した。壁面の広い面積を占める珪藻土による、四季を通じた調湿効果も考慮したという。「薪ストーブを朝と夕に焚き、昼と就寝時には消すリズムが最も快適」「4 周の壁沿いに下降気流を感じない」という住み手の声と、設計者が実測した温度分布のデータの双方は、空間的な規範を確立し得たことの裏付けといえよう。

一般的な部屋名を排した、開放の程度が異なるひと続きの空間には、住み手が集い、または互いに距離を取ることでできる、固有性の高い場が随所にある。たとえば薪ストーブを設置した土間と広間の段差は、腰掛けて語らうのにちょうど良い。広間から 2 つのスペースを直接結ぶ階段と肋木梯子を経て、2 つの動線が次第に閉鎖性を増して小部屋に到達する奥性と、両動線をあわせた循環動線が共存する空間配列は、施主の要求でもあった家族構成の変化にたいする回答といえる。

振り返れば住宅の中央に吹き抜けを配した「空方の家」から約 10 年が経つ。設計者はスキップフロアという手法を繰り返し、後に火で暖をとるという原初的な行為を加えた環境的な快適性と、固有性の高い場を内包した自由度の高い間取りの複合的効果を探求してきた。その末に、吹き抜けと居室の位置関係を反転した本作品によって、新たな規範を創出するに至った。そこに作品の先進性を見出しうるのに加え、一連の作品を通して、強烈な作家性を標榜することから一線を画す姿勢を貫いてきたことも、本委員会では高く評価したことも書き添えたい。

(文責：植田 暁)

◆ 北海道建築奨励賞 「カトリック東室蘭教会聖堂」

室蘭市内の住宅地に建つ、木造平屋建て延床面積 50 坪強のカトリック教会聖堂である。

シンプルな矩形の身廊から、祭壇背面の十字架を掲げる奥行きが浅いヴォリューム、両側面の香部屋と控え室にあてられたヴォリューム、身廊の祭壇と向かい合う側に、ガラスにより身廊と仕切られた“泣き部屋”と呼ばれるヴォリュームが突き出ることによって、全体が、伝統的なキリスト教会聖堂の型である十字形を抽象化した構成となっている。祈りの場に求められる、祭壇と十字架への意識の集中が高まる内省的かつコンパクトな空間を担保しつつ、白い天井面が、設計者の言葉を借りれば、“花が開くように”四方に緩やかに折れ上がり、その天井面に、天空から差し込む直接光と、周囲の建物の色をたたえた反射光による日々の移ろいが淡く映しだされることによって、穏やかで心地よい空間の広がりが生まれている。

外壁材には、3 種類の幅をもつ道南杉が使用され、縦方向の目透かし張りによって建物を覆っている。シャープな軒線がスカイラインを際立たせ、祭壇背面と泣き部屋のヴォリュームは、キ

ランティレバーによって地盤面から浮いている。空間の広がりや内部にたたえた聖堂が、抽象化された外観を伴いながら、住宅地の中にコンパクトで軽快な姿で立ち現れている。ここに、設計者の抽象化への注意深く確かな設計手法と、スケールに対する確かな感性を見てとることができる。

信者の寄附によってつくられたこの聖堂は、単にローコストであるだけではない。これまで主に住宅に携わってきた地元工務店による無理のない施工を可能にするために、一部の梁材を除き一般の流通材で軸組を構成する構造計画上の工夫、安価な仕上げ材の選択、信者と学生が協働施工する外壁塗装、職人の手によって精緻に施工された天井面のクロス貼りなど、設計・施工を通じた各工程の様々なレベルにおいて、丁寧かつ行き届いた配慮が行き届いている。本建築作品は、設計者だけではなく、施主・設計者・施工者による高い志、相互理解と協力によって実現に至ったものであり、北海道における建築文化の向上という点から高く評価されるべきものである。

近年、地方の人口縮減に加え、キリスト教信者が減少していると言われる状況において、この聖堂は、教区内に限られた信者のためだけのものではなく、教区を跨いだ信者の利用や、一般住民を対象にした地域の共用空間となるよう積極的に開放されている。また、身廊から900mmあがった床レベルをもつ“泣き部屋”は、一般的な聖堂建築の型には見られないものだが、子供達が、礼拝の場の雰囲気を乱すことなく、大人と同じ視線で安全に礼拝に参加でき、また長時間この聖堂に滞在できることを可能にするオリジナルの設えである。

総じて、厳選された設計手法が綿密にスタディされ、施主・設計者・施工者が協働してつくり上げた本建築作品は、簡潔でありながら極めて豊かである。加えてカトリック教会の聖堂であることを超えて、将来に向けた地域における豊かな居住環境とコミュニティ形成への期待を感じさせてくれる点でも評価できるものである。

(文責：小澤 丈夫)

5. 2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）

(1) 卒業設計優秀作品審査委員会（主査：菅原 秀見，委員数：6名，委員会開催数：1回）

審査員

主査：菅原 秀見

委員：遠藤謙一良，小倉 寛征，小西 彦仁，齊藤 文彦，中山 眞琴

(2) 受賞者

◆ 大学の部（応募作品数：13点）

- ・銀賞 加野 和奏殿：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
作品名 — 「空き」の営み
- ・銅賞 山内 翔馬殿：北海学園大学工学部建築学科
作品名 — 耕人たちの帷幄
— 温泉熱の転換による、農産共同体の暮らしと風景の提案—
- ・銅賞 坂本 修也殿：北海道科学大学工学部建築学科
作品名 — 触風景

◆ 短大・高専・専門学校の一部（応募作品数：5点）

- ・金賞 黒澤 奎太殿：北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科
作品名 — 海を歩く
- ・銀賞 濱田 智紀殿：青山建築デザイン・医療事務専門学校建築学科
作品名 — くわのきクラフトセンター
北海道庁西18丁目別館の再利用による市民工芸センター・資料館の提案
- ・銅賞 一條 桃華殿：北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科
作品名 — 未来を支える～新型牛舎モデル～

◆ 工業高校の部 (応募作品数：8点)

- ・金賞 代表者 森田 創殿：北海道名寄産業高等学校建築システム科
作品名 — Lindsay Park～国境を越えた姉妹都市の絆～
- ・銀賞 代表者①山崎 梨那殿：北海道旭川工業高等学校建築科
代表者②石原 慶一殿 同上
作品名 — 旭山動物園 リノベーション
- ・銀賞 代表者 木村 亮太殿：北海道帯広工業高等学校建築科
作品名 — 新たな繋がり
～名寄公園を賑やかに～

(3) 審査講評

◆大学の部

銀賞・加野 和奏殿

北海道岩見沢市の中心市街地で見られる「空き地」を活用して、今までの町の「裏」を「表」に変換していこうという意欲的な作品である。「空き(地)」に面する建築のファサードに「透き」と呼ばれる半外部空間を増築し、老朽化した既存建築にプライバシー、耐震補強、断熱改修、路地空間などをもたらしている。特筆すべきは看板や風除室、トタン屋根やベランダなどからなる37個の「町の要素」の存在である。これらは作者が敷地調査を通して見出した町の記憶といえる。それらを「透き」に散りばめることで「裏」を既存の町との連続性をもった「表」に変換することに成功している。以上の点から銀賞にふさわしい作品であると判断した。

(文責：小倉 寛征)

銅賞・山内 翔馬殿

疲弊する農村の活性化を図る複合施設の計画である。地域資源である温泉を活かすことをテーマに、地域の様々なデザイン要素であるマンサードやブロック造の建物をサーヴェイし再構成することで、地区の歴史と現在の生活をリンクさせた肩肘の張らない施設となっている。パターンランゲージよりも緩いデザインの選択が現代的であるともいえる。未来に向けた新しい地域のカタチを生み出すまではいかないが、丁寧な作業と図面や模型の表現が本年度の賞に値することから銅賞とする。

(文責：齋藤 文彦)

銅賞・坂本 修也殿

この作品は何をしたいのか、何の解決になるのかがよく判らず、理解するのに時間がかかった。道路のない敷地(実際には建てられない敷地)に4面を囲まれ都市の空隙に、それぞれの異なる環境をトレースして、地区の特質さえも取り込もうとした意欲的な作品と理解した。採光の取り方や床の存在も興味を持ったが、平面図もないし、建築的な図面所作としては欠けていると感じた。図面というツールを使う以上、人に伝えるという建築の手法は令和になっても変わらないのだ。

(文責：中山 眞琴)

◆ 短大・高専・専門学校の部

金賞・黒澤 奎太殿

人口減少が続く室蘭市の再生プロジェクトです。その打開策として観光産業が注目される中、室蘭の持つ観光的資源を自然景観資源として海と歴史的産業及び景観資源として港湾と工場景観・白鳥大橋と鉄鋼産業に注目し、計画が構成されている。施設は海と一体化する水盤・テラスデッキやギャラリー・レストランが3層の立体の回遊型プランで海と風景を取り入れ固有の魅力的空間が実現している。鉄鋼の素材とガラスと白い仕上げで直線を多く使用してつくられた外観は背面の白鳥大橋と水平に広がる形態と鉄鋼の素材・ガラスと白い仕上げで景観的に融合し新たな観光拠点として独自の存在感のある`新たな場所`の創出となっている。

計画の視点と表現は新しい創造力を感じる金賞にふさわしい作品である。

(文責：遠藤 謙一良)

銀賞・濱田 智紀殿

～北海道庁西 18 丁目別館の再利用による市民工芸センター・資料館の提案

既存庁舎の躯体を再利用し市民に開放された施設に再編する提案である。建築を残すということと、敷地を開放しその土地の持つ歴史を市民に伝えるということが調和して親しみの持てる建築となっている。改築の手法としては主に壁を抜く、スラブを撤去するなどの減築の手法によるが、それにより生み出されるピロティ、吹抜けがアクティビティや上下階のつながりを生み出し、豊かな空間として再生された。この現実的なアプローチによる魅力的な空間づくりの力量は銀賞に値する。欲を言えば隣接する公園を含んだ外部空間とのかかわりの提案が欲しかった。模型がとてもきれいに作られていたのも好感の持てる作品。

(文責：菅原 秀見)

銅賞・一條 桃華殿

近年は若者の農業離れが問題となっており、この提案の浜中町も例外ではない。

どのように酪農業の魅力を伝えるかが課題の中、「観光」というかたちで農業の本質と魅力を伝えることに着眼したものである。ここでは農業見学が出来るフリーストール牛舎や育成舎等の配置の効率化を計り、次に搾られた牛乳を使用したお菓子づくりの体験を工房で楽しむことも出来る。併設された店舗では地元の特産物をはじめこの製品の販売も行っている。体験や見学をゆっくり行えるよう宿泊施設も完備された充実度である。牛舎はじめ施設は光や換気などのことを考慮し、また雄大な大地を想起させる波形デザインの採用など隅々まで農業に魅力あふれる提案が散りばめられた秀作である。

(文責：小西 彦仁)

◆ 工業高校の部

金賞・代表者 森田 創殿

名寄市に住む若者にとって建築的な希望は未来を紡ぐ、切実な問題として作品を通して訴える。本来建築とは、生命を守る。という役割とは別に目や心を楽しませるという、重要な目的がある。海外コンペなどではこの点を重要視される。このリンゼイパークは若者視点によって街をどう変えたいか、どう発展させたいか、それぞれの問題点を浮上させ、糸口を明示している。この爽やかでちょっとロマンチックな提案は非常に見ていて心地よい。カナダの結びつきなども微笑ましく描かれている。各施設も楽しく、素直に。かつ巧妙に設計されている。模型での説明もわかりやすく、それぞれ納得のいく内容であった。まさしく金賞に相応しい作品である事は審査員全員の一致を見た。

(文責：中山 眞琴)

銀賞・代表者①山崎 梨那殿 代表者②石原 慶一殿

今や旭川最大の集客施設となっている旭山動物園の整備計画である。混雑の緩和と移動の利便性向上に対して、トロッコ（モノレール）をアトラクションとしての楽しみのある駅とともに提案し、動物舎としては、うみどり館、ギリもうじゅう館という、今後整備の必要となる施設も計画している。動物園全体を見た上で必要な施設を探った点や、ネーミングを含めた明快な設計主旨や自由なデザインなど、高校生として秀でていることから、銀賞とする

(文責：斎藤 文彦)

銀賞・代表者 木村 亮太殿

名寄公園を活性化させるための提案である。四季により北海道の公園は利用率が変動するが、少子高齢化社会の影響も伴い、地方都市では公園利用者が減少しているのは事実である。ここでは市民が老若男女問わず使用できる空間を公園につくり人々の賑わいを復活させたいという思いが詰まっている。1階のアクティブスペースでは子供たちが遊び回り、吹抜けを介した2階は静のスペースとして父母が子供を見つめ、学生は学習、老人は散歩の休憩にと言った情景が浮かぶ。北国の公園にこのような採暖をかねた空間はさらに利用率を上げる。ガラス張りの温室のような大空間は冬も心地よいに違いない。ストラクチャーデザインも美しく人々に夢を与える優秀な提案である。

(文責：小西 彦仁)

5. 3 優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

2019年度道内大学・短大・高専・工高優秀学生・生徒として以下の学生・生徒を表彰した。

小宮山 葵殿・中川 尚郁殿：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
峰田 雪色殿・五嶋 楓殿：北海学園大学工学部建築学科
南部 佑果殿・三浦 里菜殿：北海道科学大学空間創造学部建築学科
中澤 望未殿・黒岩笑海歌殿：室蘭工業大学工学部建築社会基盤系学科
小林 大樹殿・山木 彩夢殿：東海大学国際文化学部デザイン文化学科
田代 蒼殿・花田 愛美殿：星槎道都大学美術学部建築学科
松ヶ平詩織殿・松村 珠希殿：札幌市立大学デザイン学部デザイン学科
空間人間デザインコース
遠藤 優雅殿・橋本 志保殿：釧路工業高等専門学校建築学科
下山 瑞希殿：北海道職業能力開発大学校建築施工システム技術科
野村 友汰殿：北海道職業能力開発大学校建築科
佐々木優真殿：北海道札幌工業高等学校建築科
坂川 竜一殿：北海道札幌工業高等学校定時制建築科
鈴木 太陽殿：北海道小樽工業高等学校建設科建築デザインコース
佐久間 尚殿：北海道小樽工業高等学校定時制建築科
藤澤 聖太殿：北海道函館工業高等学校建築科
山崎 梨那殿：北海道旭川工業高等学校建築科
左近 麻香殿：北海道旭川工業高等学校定時制建築科
東田 七海殿：北海道苫小牧工業高等学校建築科
佐藤 輩斗殿：北海道苫小牧工業高等学校定時制建築科
中尾 笑生殿：北海道帯広工業高等学校建築科
大野 修平殿：北海道釧路工業高等学校建築科
森 睦揮殿：北海道名寄産業高等学校建築システム科
田屋 七海殿：北海道室蘭工業高等学校建築科
佐藤 迅殿：北海道留萌千望高等学校建築科
伊藤 太一殿：北海道北見工業高等学校建設科

5. 4 日本建築学会北海道支部功労賞

本賞は、当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員に対して感謝の意を表するとともに、更なる支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的としている。

今年度は、最も長期にわたり支部会員を継続された以下の2社の法人会員を表彰した。

- ・日本データサービス株式会社
- ・株式会社北方住文化研究所

5. 5 日本建築学会北海道支部技術賞

- (1) 北海道支部技術賞選考委員会（主査：岡本 浩一，委員数：10名 委員会開催数2回）
選考委員：支部長，学術委員会委員長，学術委員会委員の計10名

(2) 受賞者

◆北海道支部技術賞

対象候補該当なし

(3) 審査経緯・講評

日本建築学会北海道支部技術賞表彰規定 第7条第2項に基づいて、支部技術賞選考部会を構成する委員を確認し、選考部会を計2回開催した。

初回の技術賞選考部会では、応募のあった下記1件の内容について協議した。

応募された技術等の名称:「木質建材CLTの有効活用技術の開発ー蝶形CLT成形加工技術の構築と耐震補強技術への適用ー」

募集要領の選考基準に定められる、「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」の3つの観点に基づき技術内容を把握した。応募書類にある技術内容について、必要に応じ該当する応募者に質問文書を送り、適宜、追加資料の提出を求めることとした。

第2回の技術賞選考部会は、Covid-19感染拡大防止のためメール会議とし、グーグルフォームを利用しての投票を実施した。提出のあった回答書を併せて、技術内容について再度各選考委員が吟味したうえ投票を実施したところ、表彰対象候補として「適当である」が投票人数の過半に届かなかったことから、表彰対象候補該当なしとする結果に至った。

(文責：岡本 浩一)

6. 北海道建築作品発表会の実施

(1) 北海道建築作品発表会委員会 (主査：小澤 丈夫, 委員数：4名, 実行委員数：14名, 委員会開催数：5回)

2019年11月29日の発表会に向けて第39回北海道建築作品発表会委員会及び実行委員会が開催された。4名によって構成される北海道建築作品発表会委員会は1回開催され、メールによる会議を複数回行った。その後、実行委員10名が加わった実行委員会は4回開催された。

実行委員会の具体的な作業としては、各スケジュールの計画、応募要項の作成、作品の受付、プログラム編成、作品のデータ集約などである。発表会場は、例年北海道立近代美術館講堂にて開催した。

発表会当日は、第39回建築作品発表会作品集VOL-39を発刊した。また、発表会の内容について、北海道建築士事務所協会誌「ひろば」2019年12月号に実行委員の山田良氏が執筆した。また、日本建築学会「建築雑誌」2020年2月号に米田浩志氏が執筆した。

(2) 北海道建築作品発表会の開催

期日：2019年11月29日(金曜日)

会場：北海道立近代美術館講堂

発表作品数：32作品

39回目を迎える北海道建築作品発表会は、2019年11月29日(金曜日)に開催された。会場は、北海道立近代美術館講堂、参加者総数は約300人であった。1981年に第1回目をスタートさせたこの発表会は、回数を重ねるごとに発表の内容や議論の内容が厚みを増してきている。今年の発表会においても質の高い建築作品が多く発表された。この場は、発表する建築家を中心に建築関係者、建築学生、一般市民を巻き込みながら建築文化の向上に寄与してきたと言える。今回の作品発表会は、発表題数が32題であった。発表会の歴史においては平均的な数である。また、年々建築の用途が多様な広がりを持ってきていることも追記できる。

今年の発表会のプログラムも例年通り三部構成で、1部と2部は各作品のスライドを交えた口頭発表、そして3部はフォーラムとして位置付け全体の作品を集約し意見交換を行った。このフォーラムは、作品発表会において特に重要な目的性を有しており、作品の規模や用途を越えた共通点等を見出すことができる貴重な建築批評の場になっている。毎年このフォーラムがあることによって、全体を通じた建築作品の動向が顕在化され、そして発表者とオーディエンスとの間に対話が生まれる。建築作品発表会は、北海道の建築シーンにおいて極めて意義深いステージであると改めて強調することができる。

7. 特別委員会

7. 1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査および事業系担当常議員）

事業系5委員会は、本部事業と支部事業の委員会が含まれている中での可能な連携がとられ、活動に関し役員会への報告を行っている。本年度についても建築文化週間として北海道建築賞表彰式と記念講演会が実施され印刷物やHPで公表されている。また、建築作品発表会は作品集の刊行、卒業設計審査委員会からは入選作品のHP掲載がされるなど公表されている。

7. 2 総務委員会（委員長：森 傑，担当常議員、委員会開催数：1回）

経理関連業務としては、支部の毎月の収入・支出内容についての確認、経理執行状況と予算との比較検討、全体の財務管理を行った。収支状況について、四半期に一度の頻度で、常議員会にて報告した。

7. 3 ホームページ管理委員会（主査：森 太郎，幹事：齊藤 雅也，委員数：2名，メール等による情報交換を数回実施）

2019年度は以下を実施した。

- 1) 常議員会、事務局等の要請に応じて適宜、ホームページの更新作業を行なった。
- 2) ベント周知、報告等のFacebookページの更新作業を行った。
- 3) 各委員会ページの名簿、活動内容について見直しを行った。

7. 4 北海道支部女性会員の会（建築女子 café）（主査：谷口 円，委員数：12名 委員会開催数：1回）

支部単独企画として、建築女子 café@北大の企画立案を行い、実施に向けた調整を開始した。2020年6月に開催予定である。

8. 講習会・シンポジウム等の開催

8. 1 講習会

(1) 本部主催講習会

(2)

期 日	名 称	会 場	講 師	参加者数
2019. 12. 11	2019年度支部共通事業 「建築基礎構造設計指針」改定講習会	北海道建設会館	鈴木康嗣 他4名	63名

(3) 支部委員会主催講習会（セミナー）

該当なし

8. 2 講演会

(1) 本部主催講演会

該当なし

(2) 支部主催講演会

期 日	名 称	会 場	講 師	参加者数
2019. 6. 29	支部研究発表会特別企画「災害から新たなまちづくりへ～」	ホテルライフオー ト札幌	西村 幸夫 他2名	80名
10. 25	建築文化週間「第44回北海道建築賞表彰 式・記念講演会」	北海道大学遠友学 舎	堀尾 浩 他1名	70名
11. 29	第39回北海道建築作品発表会(作品数32 点)	北海道立近代美術 館大講堂		300名
2020. 2. 10	「北のすまい～その特長を広い視点から 考えよう～」	北海道苫小牧工業 高等学校	真境名達哉	35名
3. 11	「地域まちづくりと研究室～地域と学生 との出会い」	北海道留萌工業高 等学校	岡本 浩一	中止

(3) 支部委員会主催講演会

期 日	名 称	会 場	講 師	参加者数
2019. 5. 21	「連続企画『私の職能』講演会 (都市計画専門委員会)」	札幌市立大学サテ ライトキャンパス	森 朋子	24名
7. 10	「防災・減災の三本柱:「予測」「予防」「対 応」と、それらを結ぶ「リスク評価」講演 会(構造専門委員会)」	北海道大学工学部 B31 教室	中島 正愛	93名
10. 26	建築文化週間「くしろ防災屋台村」(都市 防災専門委員会)	釧路市こども遊学 館	委員会委員	278名
12. 4	公開研究会「職場・公共空間のダイバー シティを問う～マイノリティーが働きや すい環境を考える」(建築計画専門委員 会)	札幌市男女共同参 画センター	杉本 梢 他1名	84名
12. 20	「アラップにおけるトータルデザイン」 (構造専門委員会)	北海道大学工学部 B31 教室	与那嶺仁志	94名
2020. 3. 5	第14回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs19(環境工学専門委員会)	札幌市立大学サテ ライトキャンパス	発表題数 33題	中止

8. 3 見学会

開催日	見 学 場 所	解説者	参加者数	主 催
2019. 8. 7	「北海道議会庁舎改築工事現場」見 学会	委員会委員	22名	構造専門委員会 材料施工専門委員会 都市防災専門委員会
10. 12	建築文化週間「石炭のまち三笠の 足跡を巡る」	三笠ジオパ ーク推進協 議会職員	41名	歴史意匠専門委員会
12. 4	「大同生命ビル再開発プロジェク ト」見学会	嶋田 樹 岡田 茂樹 中尾 忠義	42名	構造専門委員会 材料施工専門委員会 都市防災専門委員会
2020. 1. 25	「これからの住まいと暮らしを考 える住宅見学会 2019」見学会	サデギン・ タギ	18名	北方系専門委員会 建築計画専門委員会 環境工学専門委員会

8. 4 展示会

開催日	名称	会場	参加者数
2019. 5. 15～17 10. 12～ 14 11. 11～ 14	全国大学・高専卒業設計展示会	室蘭工業大学 北海道大学 釧路工業高等専門学校	131名 35名 148名
7. 1～12. 18	道内工業高校卒業設計優秀作品巡回展	道内工高 11校	合計 415名

9. 本部関連事業・その他

9. 1 2019年度支部共通事業設計競技の実施

(1) 支部共通事業設計競技審査委員会（主査：山田 良，委員数：5名，委員会開催数：1回）

委員会活動として設計競技審査会を2019年7月4日、午後6時半より日本建築学会北海道支部会議室に於いて、5名の委員全員出席のもと開催した。本年度の設計課題は「ダンチを再考する」であり、昨年度から増えて13案の応募があった。5名の委員全員による議論および審査を経て2案を支部入選案として決定した。支部入選案2案のうち1案は全国二次審査を経て全国入選を果たした。ここに入選者を称えると同時に、引き続き積極的な提案と、さらなる応募数の増加を期待したい。

支部審査員：

主 査： 山田 良

委 員： 赤坂 真一郎，久野 浩志，小西 彦仁，山之内 裕一

(2) 審査講評

2019年度支部共通設計競技「ダンチを再考する」審査評

・「剥離するダンチ」

山崎 巧、宮嶋麻衣、三浦貴久、森田俊哉、田村 幹、高橋 基（室蘭工業大学）案

壁や床を一つひとつ剥離し、そこにあった意味を引き剥がしながら、団地に新たな機能を見つけようとしている作品である。これからの社会に対するあきらめと期待が入り混じる、どこかペシミスティックな空気を感じる作品である。広い隣棟間隔や隣接する公園や墓地との関係、これらの信頼できるコンテキストへの応答があればさらに良い作品になったと思う。消えゆくことを良しとし、そこに美しさを見出しているのなら、最終的にこの団地の意味がどのように剥離され、どのように新たな意味が付与されるのか、またはされないのか、そしてこの場所にどのように溶けていくのかを最後まで描いてほしかった。

（文責：久野浩志）

・「溢れ出す水廻り・アフレダスミズマワリ」

長谷川怜史（北海道大学）案

水廻りからダンチを再考しようとする提案である。かつて公衆浴場や井戸端が地域コミュニティの中心であったことを念頭に、団地内住戸に隠されていた「水廻り」をファサードに引き出し、ダンチ外の地域住民も共有できる「水廻り」としてアレンジすることで、そこにアクティビティを発生させ、ダンチに活気ある表情を取り戻そうとしている。プレゼンボードには新築のように整理された美しいファサードが表現されているが、対象となった既存ダンチが持つ歴史や、現役で使用されているが故に一筋縄ではいかない問題への建築的取り組みなど、思考の遍歴、格闘の痕跡をもう少し見せて欲しかった。

（文責：赤坂真一郎）

・「Apoptosis」

福山 将斗、館龍太郎（室蘭工業大学）案

1960年代の人口増加に伴い、都市近郊の町ではその受け皿となるダンチの建設が進んだ。しかし60年たった日本の現状は少子高齢化社会を迎え当時のダンチはデットストックとなりつつある。

この計画は今までの生活住居としてのものではなく、時代の変化に伴う空間の提案である。単なるベットタウンとしての住居の役割から徐々に別の暮らし方が入り込んでくる提案で、都市に依存して暮らしたい人、あるいはセカンドハウスとして、またはシェアハウスやカフェなどの生活を豊かにする提案も盛り込まれている。耐用年数が過ぎたダンチのフレームはやがて自然が入り込み面影を残しながら消えてゆく。

この案は最後までダンチを延命させながら社会環境の変化に追従し、やがて自然回帰させるという美しいストーリーとなっていて心をひく秀作である。

（文責：小西 彦仁）

・「連綿と紡がれる接ぎ壁とそのふるまい」

野口 翔太、浅野 樹、川去 健翔（室蘭工業大学）案

第二次大戦後、北海道最大の課題の寒さを改善し住宅事情を大きく変化させ急速に普及したのが、防寒住宅と呼ばれるコンクリートブロック住宅であった。敷地の北海道千歳市富丘団地は昭和40年代に完成したコンクリートブロック造簡易耐火平屋住宅団地である。現在は、一部を政策空家として解体を控えている。計画は、空室となった住戸解体後に出現する外部空間を「空の器」と呼び地域住民に開放する。また、構造壁を外断熱補強する「接ぎ壁」施工で得られる、良好な温熱環境の住戸を再生する。いわば実体の内部空間と、外部化された空地が反転しながら連続して出現する。未来への団地風景、解体とリノベーションによる持続可能性を評価した。

（文責：山之内裕一）

9. 2 作品選集支部選考の実施

（1）作品選集支部選考部会活動報告（主査：小篠 隆生：委員数5名：委員会開催数2回及び現地審査）

2019年の応募総数は、2018年度と同数の8作品となった。内訳は小学校2作品、複合再開発（文化施設＋事務所）1作品、地域拠点施設1作品、医療施設1作品、宿泊施設1作品、事務所等1作品、宗教施設1作品とバリエーションが豊富な応募であった。6月24日の第1回選考部会で、応募ファイルをもとに議論と投票を重ねて5作品に絞り込み、4回に分けて委員で分担し、慎重に現地審査を行なった。8月5日に第2回選考部会を開催し、現地審査の内容をふまえて3作品を選考し、選評を付して本部へ推薦した。

支部審査員：

主査：小篠 隆生

委員：菊田 弘輝、田川 正毅、前田 芳伸、真境名達哉

（2）作品選集支部選考の結果

北海道支部応募総数：8点

支部選考結果（本部への推薦）：作品数3点

本部採用・作品選集掲載作品数：3点

作品選集委員会への推薦作品

・カトリック東室蘭教会聖堂（作品選集掲載作品）

山田 深殿：室蘭工業大学

佐々木夕介殿：gl

- ・下川町まちおこしセンター コモレビ （作品選集掲載作品）
小倉寛征殿 ： エスエーデザインオフィス一級建築士事務所
- ・北見市立留辺蘂小学校 （作品選集掲載作品）
菅原秀見殿 ： 北海道日建設計
岩村友恵殿 ： 北海道日建設計
嘉村武浩殿 ： 北海道日建設計

9. 3 建築文化週間

建築文化週間 2019

- ①テーマ：「石炭のまち三笠の足跡を巡る」
主 催：日本建築学会北海道支部
日 時：2019. 10. 12（土）
場 所：三笠市立博物館、旧幾春別炭鉱錦坑、旧住友奔別炭鉱、旧北炭幌内炭鉱
講 師：三笠ジオパーク推進協議会職員
参加対象：学会員、地域一般市民、市町村職員、建築技術者、学生
参加者：41名
- ②テーマ：第44回（2019年度）北海道建築賞表彰式・記念講演会
主 催：日本建築学会北海道支部
日 時：2019. 10. 25（金）
講 師：堀尾 浩「重箱（ちょうそう）の家」（第44回北海道建築賞）
山田 深「カトリック東室蘭教会聖堂」（第44回北海道建築奨励賞）
場 所：北海道大学遠友学舎、
参加対象：学会員、一般市民、建築関係者、学生
参加者：70名
- ③テーマ：「くしろ防災屋台村」
主 催：日本建築学会北海道支部
共 催：北海道釧路総合振興局
日 時：2019. 10. 26（土）
場 所：釧路市子ども遊学館
参加対象：学会員、地域一般市町村民（親子）、行政職員、学生
参加者：278名

10. 建築関連団体との活動

10. 1 AIJ-JIA 合同委員会（委員数(AIJ)：8名)

本委員会では、AIJ, JIA 両団体の活動の活性化を目的として、合同の企画等に関わる事項について協議。協議内容は、①AIJ-JIA ジョイントセミナーの企画、②両団体の活動内容、③両団体のイベント紹介と参加要請についてである。

10. 2 北海道建築設計会議（幹事会開催数：12回）

本会議は、日本建築学会北海道支部、北海道建築設計事務所協会、日本建築家協会北海道支部、北海道建築士会、北海道まちづくり促進協会、北海道設備設計事務所協会、日本構造技術者協会北海道支部、日本建築積算協会北海道支部、建築設備技術者協会北海道支部及び北海道建築技術協会の10団体により構成されている。本会からは、中村英隆と深瀬孝之の2名を参加させた。幹事会においては、各団体と情報交換や意見交換を行った。

11. 共催・後援

(後援)

期 日	名 称	会 場	主 催
2019. 5. 31	JKMM アーキテクト (ヘルシンキ) 公開講演会	北海道大学工学研究院建築都市スタジオ MUTSUMI HALL	北海道大学大学院工学研究院建築デザイン学研究室
6. 16	道産材に触れみんなでつくる「簡易建築」ワークショップ	SAPPORO551 階インナーガーデン	株竹中工務店 慶應義塾大学
7. 17 登録締切	「JIA 北海道建築大賞 2019」		日本建築家協会北海道支部
8. 19 応募締切	第 44 回「北の住まい」住宅設計コンペ KITA SUMA		北海道建築士事務所協会
9. 24	「コンクリートの日 in HOKKAIDO 出前講座 大学から実務者へ～技術情報の発信と情報交換」	北海道大学学術交流会館	日本コンクリート工学会
10. 24	公益社団法人日本都市計画学会北海道支部令和元年度第 1 回都市地域セミナー	かでる 2.7	日本都市計画学会北海道支部
11. 16	公益社団法人日本都市計画学会北海道支部令和元年度研究発表会	北海道大学工学部	日本都市計画学会北海道支部
11. 16	公益社団法人日本都市計画学会北海道支部平成 30 年度第 1 回都市地域セミナー	北海道庁赤れんが庁舎 2 号会議室	日本都市計画学会北海道支部
12. 3	「スマートウェルネスオフィスの最前線」	北海道大学学術交流会館	空気調和・衛生工学会北海道支部
2020. 2. 11	堀川三郎教授 学会 3 賞受賞記念小樽講演会	ニュー三幸小樽本店	堀川三郎教授学会賞受賞記念小樽講演会開催実行委員会
2. 15	「第 30 回旭川建築作品発表会」	ガーデンセンター	旭川まちなみデザイン推進委員会
3. 10	セメント系固化材利活用セミナー —セメント系固化材の広がる用途と役割	札幌コンベンションセンター	セメント協会
5. 12 登録締切	第 11 回 JIA・テスクチャレンジ設計コンペ		日本建築家協会北海道支部

Ⅱ 2019年度収支決算報告

2019年度 貸借対照表

2020年 3月31日現在							
科目名称	当年度	前年度	増減	科目名称	当年度	前年度	増減
I 資産の部				II 負債の部			
1 流動資産				1 流動負債			
現金預金	2,721,389	2,783,636	△62,247	未払金	0	0	0
未収金	0	0	0	前受金	12,000	14,000	△2,000
前払金	171,809	168,684	3,125	預り金	20,373	20,353	20
仮払金	27,672	27,660	12	仮受金	582,378	582,318	60
				賞与引当金	0	0	0
流動資産合計	2,920,870	2,979,980	△59,110	流動負債合計	614,751	616,671	△1,920
2 固定資産				2 固定負債			
(1) 基本財産	0	0	0	退職給付引当金	1,140,000	1,080,000	60,000
基本財産合計	0	0	0	固定負債合計	1,140,000	1,080,000	60,000
(2) 特定資産				負債の部合計	1,754,751	1,696,671	58,080
学術振興基金引当資産	4,670,000	4,670,000	0	III 正味財産の部			
災害調査研究基金引当資産	1,900,000	1,900,000	0	1 指定正味財産			
支部基金引当資産	2,610,000	2,610,000	0	指定正味財産合計	0	0	0
退職給付引当資産	1,140,000	1,080,000	60,000	(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
特定資産合計	10,320,000	10,260,000	60,000	(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(3) その他の固定資産				2 一般正味財産	12,047,669	12,104,859	△57,190
敷金	561,550	561,550	0	(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
その他の固定資産合計	561,550	561,550	0	(うち特定資産への充当額)	(9,180,000)	(9,180,000)	(0)
固定資産合計	10,881,550	10,821,550	60,000	正味財産合計	12,047,669	12,104,859	△57,190
資産の部合計	13,802,420	13,801,530	890	負債及び正味財産合計	13,802,420	13,801,530	890

2019年度 正味財産増減計算書

2019年 4月 1日から 2020年 3月31日まで

科目名称	当年度	前年度	増減	科目名称	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部							
1. 他会計振替額							
交付金収入	(6,862,000)	(6,904,000)	(△42,000)				
支部費	1,726,000	1,737,000	△11,000				
支部経営助成費	1,890,000	1,950,000	△60,000				
事業促進費	300,000	300,000	0				
支部研究補助費	200,000	200,000	0				
教育文化事業交付金	558,000	546,000	12,000				
大会交付金	0	0	0				
支部事務費	300,000	300,000	0				
支部事務所費	1,888,000	1,871,000	17,000				
他会計からの振替額計	6,862,000	6,904,000	△42,000				
2. 経常増減の部							
[1] 経常収益				[2] 経常費用			
(1) 実施事業会計	(175,000)	(205,000)	(△30,000)	(1) 実施事業会計	(1,414,129)	(1,375,247)	(38,882)
表彰・顕彰事業	(175,000)	(205,000)	(△30,000)	調査研究事業	(497,675)	(461,651)	(36,024)
表彰関係	175,000	205,000	△30,000	調査研究事業	497,675	461,651	36,024
(2) その他会計	(2,636,925)	(2,843,123)	(△206,198)	表彰・顕彰事業	(640,693)	(610,896)	(29,797)
研究会事業	(2,136,925)	(2,343,123)	(△206,198)	表彰関係	635,332	605,850	29,482
支部研究発表会	917,505	1,227,287	△309,782	設計競技	5,361	5,046	315
建築作品発表会	1,219,420	1,115,836	103,584	社会対応事業	(275,761)	(302,700)	(△26,939)
過年度研究会事業	0	0	0	文化事業	240,379	281,543	△41,164
委託事業	(500,000)	(500,000)	(0)	展示会事業	35,382	21,157	14,225
調査研究委託事業	500,000	500,000	0	(2) その他会計	(2,393,639)	(2,466,732)	(△73,093)
(3) 法人会計	(146,948)	(160,942)	(△13,994)	研究会事業	(1,968,639)	(2,041,732)	(△73,093)
特定資産運用益	(1,407)	(1,401)	(6)	支部研究発表会	662,764	802,646	△139,882
特定資産受取利息	1,407	1,401	6	建築作品発表会	1,305,875	1,239,086	66,789
雑収益	(145,541)	(159,541)	(△14,000)	委託事業	(425,000)	(425,000)	(0)
受取利息	41	41	0	調査研究委託事業	425,000	425,000	0
雑収益	145,500	159,500	△14,000	(3) 法人会計	(6,070,295)	(6,084,252)	(△13,957)
				支部運営	(258,636)	(243,704)	(14,932)
				支部総会	235,200	215,688	19,512
				支部役員会	23,436	13,716	9,720
				選挙管理委員会	0	0	0
				その他運営費	0	14,300	△14,300
				支部事務運営	(5,811,659)	(5,840,548)	(△28,889)
				給与手当	2,132,620	2,130,240	2,380
				退職給付費用	60,000	60,000	0
				法定福利厚生費	374,398	370,672	3,726
				福利厚生費	22,625	24,375	△1,750
				通勤手当	180,600	176,040	4,560
				旅費交通費	6,710	22,980	△16,270
				通信回線費	119,698	100,166	19,532
				発送運搬費	29,590	16,225	13,365
				消耗品費	36,991	32,847	4,144
				印刷費	41,833	99,423	△57,590
				支払手数料	28,320	31,752	△3,432
				賃貸料	144,940	144,720	220
				地代家賃	2,042,958	2,024,208	18,750
				水道光熱費	540,098	555,444	△15,346
				雑費その他	50,278	51,456	△1,178
経常収益計	2,958,873	3,209,065	△250,192	経常費用計	9,878,063	9,926,231	△48,168
当期経常増減額	△6,919,190	△6,717,166	△202,024				
当期一般正味財産増減額	△57,190	186,834	△244,024				
一般正味財産期首残高	12,104,859	11,918,025	186,834				
一般正味財産期末残高	12,047,669	12,104,859	△57,190				
II. 指定正味財産増減の部							
指定正味財産期末残高	(0)	(0)	(0)				
III. 正味財産期末残高							
	12,047,669	12,104,859	△57,190				

2019年度 正味財産増減計算書（決算-予算対比）

2019年4月1日 ～ 2020年3月31日

一般社団法人 日本建築学会 北海道支部

科目	予算額	決算額	差異
I. 一般正味財産の部			
1. 他会計振替額			
交付金収入	(6,781,000)	(6,862,000)	(▲ 81,000)
支部費収入	1,633,000	1,726,000	▲ 93,000
経営助成費収入	1,920,000	1,890,000	30,000
事業促進費収入	300,000	300,000	0
支部研究補助費収入	200,000	200,000	0
教育文化事業交付金収入	540,000	558,000	▲ 18,000
支部事務費収入	300,000	300,000	0
支部事務所費収入	1,888,000	1,888,000	0
他会計からの振替額計	6,781,000	6,862,000	▲ 81,000
2. 経常増減の部			
[経常収益]			
実施事業会計	(175,000)	(175,000)	(0)
表彰・顕彰事業	(175,000)	(175,000)	(0)
表彰関係	175,000	175,000	0
その他会計	(2,160,000)	(2,636,925)	(▲476,925)
研究集会事業	(2,160,000)	(2,136,925)	(23,075)
支部研究発表会	1,070,000	917,505	152,495
建築作品発表会	1,070,000	1,219,420	▲149,420
過年度研究集会事業	20,000	0	20,000
委託事業	(0)	(500,000)	(▲500,000)
委託調査研究事業	0	500,000	▲500,000
法人会計	(178,000)	(146,948)	(31,052)
特定資産運用益	2,000	1,407	593
特定資産受取利息	2,000	1,407	593
雑収益	(176,000)	(145,541)	(30,459)
受取利息	1,000	41	959
雑収益	175,000	145,500	29,500
経常収益計	2,513,000	2,958,873	▲445,873
実施事業会計	(1,810,000)	(1,414,129)	(395,871)
調査研究事業	(650,000)	(497,675)	(152,325)
調査研究事業	650,000	497,675	152,325
表彰・顕彰事業	(760,000)	(640,693)	(119,307)
表彰関係	720,000	635,332	84,668
設計競技	40,000	5,361	34,639
社会対応事業	(400,000)	(275,761)	(124,239)
文化事業	370,000	240,379	129,621
展示会事業	30,000	35,382	▲ 5,382
その他会計	(2,035,000)	(2,393,639)	(▲358,639)
研究集会事業	(2,035,000)	(1,968,639)	(66,361)
支部研究発表会	885,000	662,764	222,236
建築作品発表会	1,150,000	1,305,875	▲ 155,875
委託事業	(0)	(425,000)	(▲425,000)
委託調査研究事業	0	425,000	▲425,000
法人会計	(6,293,000)	(6,070,295)	(222,705)
支部運営	(310,000)	(258,636)	(51,364)

科 目	予算額	決算額	差異
支部総会	250,000	235,200	14,800
支部役員会	40,000	23,436	16,564
選挙管理委員会	2,000	0	2,000
その他の運営費	18,000	0	18,000
支部運営(非課税)	(5,983,000)	(5,811,659)	(171,341)
給与手当	2,130,000	2,132,620	▲ 2,620
退職給付費用	60,000	60,000	0
法定福利費	360,000	374,398	▲ 14,398
福利厚生費	30,000	22,625	7,375
通勤手当	176,000	180,600	▲ 4,600
旅費交通費	15,000	6,710	8,290
通信回線費	125,000	119,698	5,302
発送運搬費	40,000	29,590	10,410
消耗品費	80,000	36,991	43,009
印刷費	55,000	41,833	13,167
支払手数料	30,000	28,320	1,680
賃借料	145,000	144,940	60
地代家賃	2,024,000	2,042,958	▲ 18,958
水道光熱費	648,000	540,098	107,902
雑費その他	65,000	50,278	14,722
経常費用計	10,138,000	9,878,063	259,937
当期経常増減額	▲844,000	▲ 57,190	▲786,810
当期一般正味財産増減額	▲844,000	▲ 57,190	▲786,810
一般正味財産期首残高	11,798,000	12,104,859	▲306,859
一般正味財産期末残高	10,954,000	12,047,669	▲1,093,669
指定正味財産期末残高			
正味財産期末残高	10,954,000	12,047,669	▲1,093,669

監査報告

2019 年度における一般社団法人日本建築学会北海道支部の業務及び経理を監査の結果、業務は適法であり、収入支出とも適正なものと認める。

2020 年 4 月 21 日

支部監事

下村 憲一 

支部監事

佐藤 寿 

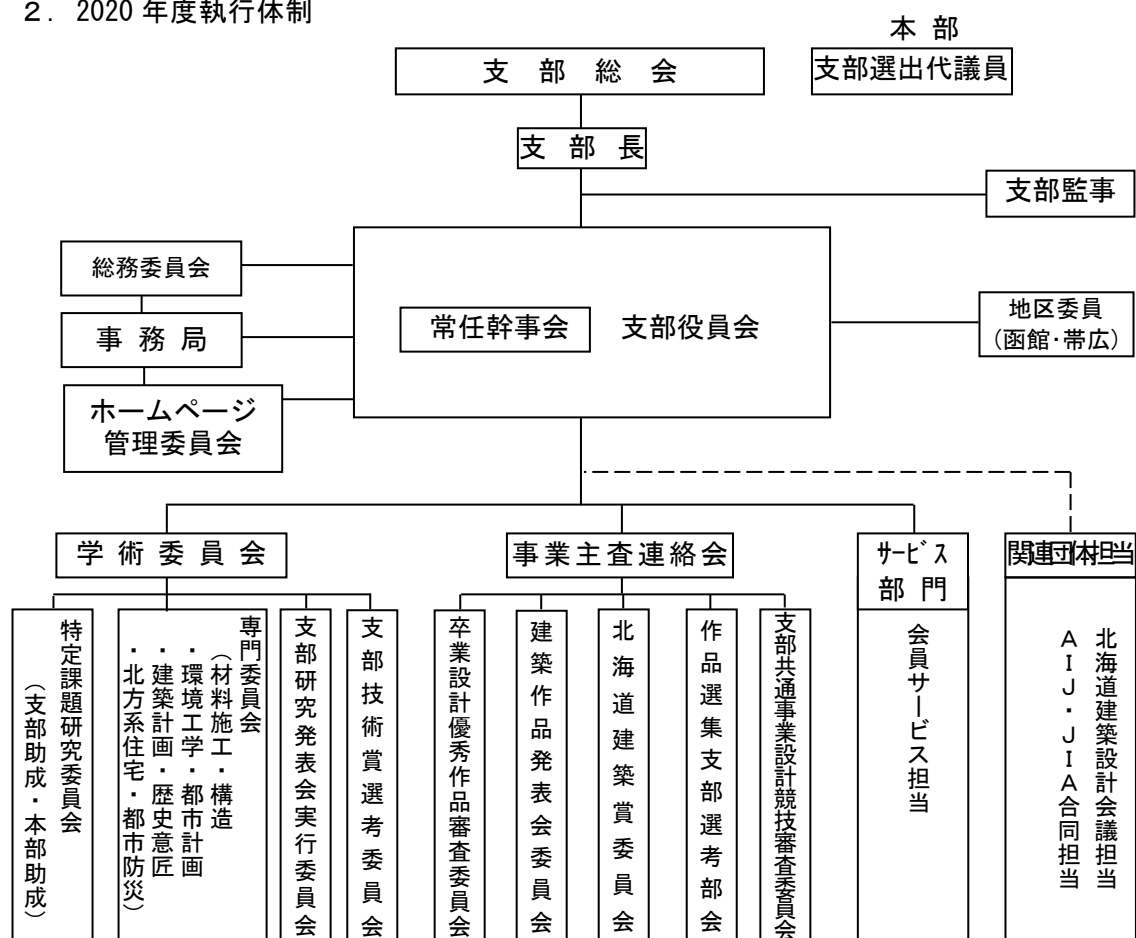
Ⅲ 2020 年度事業計画方針案

1. 活動方針

例年行われている事業（支部運営の諸会合の開催、受託研究の受託、支部研究発表会の実施、表彰、北海道建築作品発表会の実施、特別委員会、講習会・シンポジウム等の開催、本部関連事業・その他、建築関連団体との活動、共催・講演など）を行う。これらの事業を行うなかで、支部活動・研究活動の活性化、若手や女性の活用・ネットワーク化などを考慮して活動を進める。

支部活動の維持・活性化のために財政の強化に関して継続的に検討する。また、支部事務所ビルおよび周辺の再開発計画等に対する情報収集などを行い、将来的な支部事務所のあり方について検討する。

2. 2020 年度執行体制



日本建築学会北海道支部組織構成図

支部長(2020.6.1~2022.5.31)

菊地 優 北海道大学教授

新任常議員(2020.6.1~2022.5.31)

石塚 和彦 石塚和彦アトリエ一級建築士事務所代表
垣田 淳 (株)竹中工務店北海道支店設計部課長代理
佐伯 健一 北海道札幌工業高等学校建築科教諭
菅原 秀見 (株)北海道日建設計総括室長
中西 雅裕 大成建設(株)札幌支店建築部作業所長
前田憲太郎 北海道科学大学准教授
山田 信博 札幌市立大学准教授

(※印 常任幹事は6月以降決定)

新任常議員は、支部役員選挙開票(2020年4月21日)により決定した。

支部役員選挙管理委員は次の通りであった。(☆印 委員長)

☆三浦 誠, 高井 伸雄, 中村 英隆, 山田 航司

留任常議員(2019.6.1~2021.5.31)

石井 旭 地方独立行政法人北海道総合研究機構建築研究本部北方建築総合研
究所地域研究部地域システムG主査
植松 武是 北海学園大学教授
※高井 伸雄 北海道大学准教授
深瀬 孝之 北海道科学大学教授
堀尾 浩 堀尾浩建築設計事務所代表
松岡 佳秀 北海道建設部建築局建築保全課主査
※山田 航司 清水建設(株)北海道支店設計部グループ長
(※印 常任幹事)

新任代議員 (2020.4.1~2022.3.31)

久新信一郎 岩田地崎建設(株)北海道本店第二営業部部長
米田 浩志 北海学園大学教授

(2020年3月の本部選挙の結果、上記2名が選出)

留任代議員 (2019.4.1~2021.3.31)

菅沼 秀樹 (株)アトリエブク代表取締役社長
福島 明 北海道科学大学教授

新任支部監事 (2020.6.1~2022.5.31)

大條 雅昭 公益財団法人建築技術教育普及センター北海道支部事務局長
(2020年4月の支部役員会で選出)

留任支部監事 (2019.6.1~2021.5.31)

佐藤 孝 北海道科学大学名誉教授

地区委員 (2020.6.1~2021.5.31)

帯広地区委員 小野寺 一彦 設計工房アーバンハウス主宰
函館地区委員 山本 真也 元函館市教育委員会教育長

3. 支部運営の諸会合の開催

◆ 総会

期日 2020年5月22日(金)
会場 北海道建設会館

◆ 支部役員会 (複数回)

◆ 常任幹事会 (複数回)

◆ 選挙管理委員会 (支部役員選挙時に開催する)

4. 学術系委員会

4. 1 学術委員会 (主査：岡崎太一郎, 委員数：13名, 委員会開催予定数：4回)

本委員会は、本部学術推進委員会の情報を各専門委員会および研究委員会に報告するとともに、各専門委員会・研究委員会から企画および活動の報告を受け、各委員会の活動の横断的な連携をはかる。また、支部長諮問事項についての検討、支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認(技術パネル展の企画・運営)、特定課題研究(本部・支部助成)の推薦、建築文化週間事業の募集と選考、北海道支部技術賞の募集と支部技術賞選考委員会の設置による選考、道内工業高校巡回講演会への講師派遣を行なう。その他、事業主査連絡会との横断的な連携をはかる。

第1回：本部学術推進委員会の報告。支部研究発表会の報告。各専門委員会・研究委員会の活動報告。建築文化週間事業の募集。特定課題研究の募集。

第2回：支部研究発表会に関連する内容の審議。各専門委員会・研究委員会の活動報告。建築文化週間企画および特定課題研究の承認。支部技術賞の募集。

第3回：本部学術推進委員会の報告。次年度の支部研究発表会の企画、各専門委員会・研究委員会の活動報告。支部技術賞選考委員会の設置。

第4回：支部研究発表会特別企画の決定。各専門委員会・研究委員会の活動報告。特定課題研究の結果報告。支部技術賞選考委員会による支部技術賞の表彰候補の選考。

なお、特定課題研究委員会は、次の通りである。

(継続：本部助成)「北海道沿岸部に残存する戦争遺構、ならびに関連資料にかかわる調査研究」主査：西澤 岳夫 2019-20

(新規：支部助成)「農漁村地域づくり研究委員会「北海道の農漁村地域づくり計画の構築に関する研究」主査：柳田 良造 君 2020-21

4. 2 専門委員会

◆ 材料施工専門委員会 (主査：杉山 雅, 委員数：21名, 委員会開催数：3回)

建築の材料・施工に関する情報や意見の交換のほか、支部長から諮問される事項の検討、本部との情報交流や諮問事項の検討、最新の施工現場や特色のある建築物や工事現場の見学会、本部主催講習会への協力や北海道に関連する材料施工部門の研究委員会活動を行う。

具体的な活動予定は以下のとおりである。

- ・本部および支部各種委員会報告と諮問事項の審議
- ・勉強会(話題提供)
- ・見学会の開催
- ・道内工業高等学校巡回講演会

◆ 構造専門委員会 (主査：植松 武是, 委員数：21名, 委員会開催予定数：2回)

各種行事を企画して道内における構造分野の研究者・技術者との情報交換を行い、構造に関する研究調査を推進する。また、構造分野において、若手会員の学会活動への参加を支援する。

主な活動と時期など

- 1) 委員会の開催：2回（6月，12月）
- 2) 幹事会の開催：2回（9月，3月）
- 3) 講演会・講習会：2回程度（随時）
- 4) 見学会：2回程度（随時）道内の建築物(施工中も含む)等を対象とする。
- 5) 勉強会：1回（委員会開催時）内容は構造に関わらず幅広い分野を対象とする。

◆ **環境工学専門委員会（主査：桑原 浩平，委員数：16名，委員会開催予定数：3回）**

- 1) 学位を取得した若手研究者等の研究発表の機会を設け，最新の研究動向を把握する。
- 2) 環境建築や最新の設備技術等を導入した建築の見学会を，他委員会と連携して開催する。
- 3) 第15回環境工学系・卒業論文発表会（EGGs'20）の開催を支援する。
- 4) 空気調和・衛生工学会北海道支部主催地区講演会ほか，本委員会の関係組織が主催する講演会，セミナー等を支援する。

◆ **建築計画専門委員会（主査：谷口 尚弘，委員数：11名，委員会開催予定数：2回）**

見学会なども2回程度行う。北海道の建築計画（学）分野にかかわる新しい課題の把握、加えて精力的に社会貢献活動の展開を目指す。また、新たに北海道らしい建築計画的課題を探索しその解決方策などを考察する。またこれらの成果は、公開研究会として積極的に公に開いていきたい。

◆ **都市計画専門委員会（主査：岡本 浩一，委員数：13名，委員会開催予定数：4回）**

人口減少・超高齢・少子社会の到来および公民問わず各種ストックの老朽化は，都市の健全さの維持に大きな懸念を生じさせている。建築には，都市や地域の一部であると認識した上で，その“在り方”を問い直すことが求められる。変化する社会のなかで，建築と都市・地域との関係を改めて考える機会を，学生や若手技術者も交えた形で設けていく。

委員会は奇数月第3火曜日を軸に調整し，サロン形式により適宜ゲスト枠も設けるなどして開催する。産官学各分野から委員が所属する当委員会の特性を活かし，各委員の業務等について情報交換するとともに，知恵出しや連携・協働の可能性も模索する。加えて，それぞれに活躍されているフィールドに訪れての意見交換も実施を検討する。

◆ **歴史意匠専門委員会（主査：西澤 岳夫，委員数：18名，委員会開催予定数：4回）**

道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用等に関して委員相互の情報交換を行い、必要に応じて学会として委託研究を含め社会や住民に貢献する体制を整備する。具体的には、建築文化週間事業として、講演会と見学会を合わせた「釧路の歴史的建造物の保存と活用を考える」を10月中旬に開催する予定である。この他、特定課題研究として北海道沿岸部に築造されたトーチカの現況調査を行う。

◆ **北方系住宅専門委員会（主査：立松 宏一，委員数：12名，委員会開催予定数：2回）**

新たな地域住宅像形成に向けた議論や、最新の住宅事情に関する意見交換、学会の事業への協力、参画の検討ため、年2回程度の委員会を開催する。また、新たな地域住宅像の検討に向けて住宅見学会・意見交換会（第13回）を実施する。

◆ **都市防災専門委員会（主査：麻里 哲広，委員数：16名，委員会開催予定数：2回）**

活動方針：委員相互の連携，防災関係機関との連携，他学協会との連携，地域との連携を強化するとともに，次の世代を担う若い人を育てていくための「防災教育の充実」を進める。

主な活動事業

- 1) 建築文化週間事業「地震防災体験学習」の実施（2020年10月に釧路で予定）。
- 2) H30年北海道胆振東部地震の調査報告書刊行へ向けての活動。
- 3) 構造専門委員会等との共催による見学会、講習会の実施。
- 4) 災害時の北海道支部緊急連絡体制の整備と充実。
- 5) 各種防災イベントへの協力

4. 3 特定課題研究委員会

(2020 年度より)

- ◆農漁村地域づくり調査研究委員会（主査：柳田 良造, 委員数：9 名, 委員会開催予定数：複数回）

北海道の農漁村地域づくり計画の構築に関する調査研究活動を行う。

4. 4 本部からの支部助成金による研究委員会

(2019 年度より)

- ◆北海道沿岸部戦争遺跡調査研究委員会（主査：西澤 岳夫, 委員数：7 名, 委員会開催予定数：4 回）

北海道沿岸部に築造された戦争遺跡、主に昭和 18 年から昭和 20 年にかけて築造されたトーチカの現況を把握するとともに台帳の作成を行う。具体的には、釧路、根室、胆振、網走、および函館（要塞）を対象に現地調査を実施し各種記録保存と情報の収集を行う予定である。その他、旧陸軍省『築城学教程』（昭和 17 年）をはじめとする文献資料（防衛省防衛研究所戦史研究センター所蔵）と当該遺跡との関連について考察を試みる。

5. 支部研究発表会

5. 1 支部研究発表会実行委員会（主査：千葉 隆弘, 幹事：吉津 利洋, 岩澤 浩一, 実行委員会委員数：18, 委員会開催予定回数：6 回）

支部研究発表会実行委員会は支部研究発表会の企画・運営を目的とし、下記を実施する。

- 1) 支部研究発表会の日程と会場の決定
- 2) 支部研究発表会の論文原稿種別、発表形式の決定
- 3) 建築学会 HP 論文検索システムに対応するための電子投稿時記載事項の改善
- 4) 論文執筆要領の作成と論文原稿の募集
- 5) 特別企画の実施および技術パネル展開催の支援
- 6) 論文原稿の受付および編集作業の実施、研究発表会プログラムの作成
- 7) 支部研究報告集（冊子および CD-ROM）の作成および発行
- 8) 支部研究発表会の実施
- 9) 優秀講演奨励賞の選定・授与

支部研究発表会の実施

第 93 回北海道支部研究発表会

日時：2020 年 6 月 20 日（土）一般研究発表会、会長講演、技術パネル展

場所：北海道科学大学（札幌市手稲区）

懇親会：講演会終了後に北海道科学大学食堂にて開催予定

原稿提出締切：2020 年 4 月 16 日（木）17:00（電子投稿受付）

発表登録システム HP：http://regist.hokkaido.seikyuu.jp/aij/entry/thesis_entry.php

支部研究報告集（冊子および CD-ROM）No.93 を発行

6. 表彰

6. 1 北海道建築賞（主査：加藤 誠，委員数：7名，委員会開催予定数：複数回）

（1）賞の概要

建築作品を支える「先進性」「規範性」「洗練度」の3つの視点から現地視察、議論を通して選考し、北海道建築賞の表彰と受賞者による記念講演会を行い、北海道における建築創作活動の一層の促進を図る。

（2）北海道建築賞委員会の実施

上記の方針に基づき、以下のスケジュールによって委員会を実施する。

1) 第45回北海道建築賞の応募期間：2019年4月20日（月）～5月13日（水）

2) 審査期間：5月上旬（応募状況の確認）～6月中旬（書類審査）～7・8月（現地審査）～9月上旬（最終選考）

3) 結果発表：9月下旬（常議員会での承認後）

4) 北海道建築賞表彰式および受賞記念講演会 10月23日（金）予定

（3）委員構成

留任委員6名、新規委員1名の計7名で委員会運営を行う。

加藤誠（アトリエブунк/室蘭工業大学：主査）他6名。

6. 2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）（主査：菅原 秀見，委員数：6名，委員会開催予定数：1回）

（1）賞の概要

大学・短大・高専・専門学校・工業高校の優秀作品の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育および技術の向上を図る。

（2）卒業設計優秀作品審査委員会の実施

2020年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、2019年度と同様、2020年度卒業設計作品について優秀作品審査委員会を実施し、表彰の目的、審査の考え方を確認した上で「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に金、銀、銅の各賞を選考する。また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評を行う。

6. 3 卒業優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

大学・短大・高専・工高の優秀学生・生徒の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

6. 4 日本建築学会北海道支部功労賞

当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員、または所属した会員に対して、支部としての感謝の意を表するとともに、支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的とし、表彰を実施する。

6. 5 日本建築学会北海道支部技術賞

北海道支部技術賞は、地域性に関わって、創造性豊かな建築・都市に関する新技術を表彰することにより、北海道における建築界の技術の向上に資することを目的とし、表彰を実施する。

7. 北海道建築作品発表会

7. 1 北海道建築作品発表会委員会（主査：小澤 丈夫，委員数：5名，実行委員数：11名委員会開催数：5回（実行委員会4回を含む））

2020年度は、建築作品発表会が第40回を迎える。昨年に引き続き、本発表会を充実した発表の場にしたい。これまで、建築作品発表会は、北海道建築の質の向上に積極的に寄与してきた。その歴史的事実を再確認しながら、発表会の後半に企画しているフォーラムを発展させ、さらに活発な議論が生じるような場を検討して行きたい。また、作品発表会作品集については40周年記念号として評論の充実など編集内容を充実させたい。

7. 2 第39回北海道建築作品発表会の実施予定

第40回北海道建築作品発表会の実施予定

作品登録締め切り：9月中旬から下旬

作品集原稿締め切り：10月上旬から中旬

作品発表会開催時期：11月下旬から12月上旬

作品発表会開催場所：北海道立近代美術館講堂（予定）

8. 特別委員会

8. 1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査および事業主査連絡会担当常議員，必要に応じて開催）

事業系5委員会は、本部事業と支部事業の委員会が含まれている中で、適宜事業を把握し、役員会へ報告提案をおこなう。それぞれの事業は印刷物やHPで公表するとともに支部事業の活性化を検討する。

8. 2 総務委員会（委員長：森 傑，担当常議員，委員会開催予定数：1回）

委員会の目的である北海道支部事務局運営の健全性を維持するために、適宜委員会を開催し、財務管理・事務局業務管理について検討する。昨今の経済状況により、支部の財政状況がさらに困難さを増していることから、各事業に対して早めの詳細予算策定および事業終了後の決算報告についての提出を厳格にして、見通しのある財務管理を進める予定である。さらに事務局業務の効率化、日本建築家協会北海道支部との合同企画についても検討を行う。

総務委員会（2020年度）

委員長：森 傑 北海道大学

委員： 担当常議員

8. 3 ホームページ管理委員会（主査：森 太郎，委員数：2名，必要に応じて開催）

2020年度は以下の活動を予定している。

- 1) 常議員会、事務局等の要請に応じて適宜、ホームページの更新作業を行なう。
- 2) Facebook ページへのイベント周知，報告を行う。
- 3) 会議資料等のアーカイブ手法の検討。

8. 4 北海道支部女性会員の会（建築女子 café）（主査：野村 理恵，委員数：12名委員会開催予定数：複数回）

建築女子 café@北大（交流イベント（学生・社会人））を6月に開催する。

他団体との共同による女性交流イベントを行う

9. 講習会・シンポジウム等の開催

本部主催による講習会・講演会のほか、地域の要請にこたえる各種の講演・講習会を、工業高校・自治体及び関連諸団体等の協力を得て複数の地域で企画実施する。

9. 1 本部主催講習会

2020年度本部主催支部共通事業、委員会主催講習会を開催する。

9. 2 講演会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

9. 3 展示会

支部卒業設計優秀作品を学会支部ホームページにて公開する。また、全国大学・高専卒業設計優秀作品巡回展ならびに道内工高卒業設計優秀作品巡回展を実施する。

9. 4 見学会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

10. 本部関連事業・その他

10. 1 2020年度支部共通事業設計競技の実施（主査：山田 良，委員数：5名， 委員会開催予定数：1回）

2020年度設計競技審査委員会は、主査：山田良、委員：赤坂真一郎、久野浩志、小西彦仁、山之内裕一の5名で行う予定である。

2020年度の課題は「外との新しいつながりをもった住まい」と決定され、7月中に支部審査を1回行う予定である。

2019年度の応募総数は13案で、前回は応募数から微増した。近年は道外からの応募も見受けられる。今後の応募数増加を期待したい。

10. 2 作品選集支部選考部会（主査：小篠 隆生，委員数：6名， 委員会開催予定数：2回及び現地審査）

これまでの支部選考部会と同様に、応募ファイルに基づく1次審査、さらに現地審査をふまえての2次審査を行ない、支部として作品選集委員会に推薦する作品を選出する。作品選集の主旨にかなう建築を、意匠・環境・構造など各分野の委員相互の十分な議論を通して選ぶとともに、本部での選考審査に耐えうる、北海道の価値ある建築が作品選集の掲載に至るよう評価を行い、本部へ推薦するものとする。

10. 3 建築文化週間

グループセミナーなどを通して地域との研究交流を深め、また建築文化週間などの文化事業を通じて、開かれた学会として社会に対する文化活動の推進を図る。本年度予定している文化関連事業は、以下の3件を予定している。

1. 「くしろ防災屋台村」（都市防災専門委員会）
2. 「釧路の歴史的建造物の保存と活用を考える」（歴史意匠専門委員会）
3. 第45回北海道建築賞表彰式・記念講演会（支部主催）

1 1. 建築関連団体との活動

1 1. 1 AIJ-JIA 合同委員会（委員数(AIJ)：8名，委員会開催予定数：1回）

日本建築家協会北海道支部(JIA)と合同委員会を開催し、両団体の活動についての情報交換および合同企画について協議する。ジョイントセミナーについては継続して行うように計画を進める。

1 1. 2 北海道建築設計会議

10団体により構成されている本会議は、建築確認制度や建築士制度など、主に建築業界に共有の課題について、引き続き情報交換や意見交換をおこなう予定である。

IV 2020年度収支予算案

2020年度 予算書（正味財産増減計算ベース） 北海道支部

科 目	2020年度予算額	2019年度予算額	前年度比 (増 減)
I. 一般正味財産増減の部			
1. 他会計からの振替額			
本部からの交付金	(6,753,000)	(6,781,000)	(▲28,000)
支部費	1,613,000	1,633,000	▲20,000
経営助成費	1,890,000	1,920,000	▲30,000
事業促進費	300,000	300,000	0
支部研究補助費	200,000	200,000	0
建築文化事業費	544,000	540,000	4,000
大会交付金	-	-	0
支部事務費	300,000	300,000	0
支部事務所費	1,906,000	1,888,000	18,000
他会計からの振替額計 (A)	6,753,000	6,781,000	▲28,000
2. 経常増減の部			
[経常収益]			
実施事業会計	(175,000)	(175,000)	(0)
表彰・顕彰事業	(175,000)	(175,000)	(0)
表彰関係事業	175,000	175,000	0
その他事業会計	(2,160,000)	(2,160,000)	(0)
研究集会事業	(2,160,000)	(2,160,000)	(0)
支部研究発表会	1,070,000	1,070,000	0
建築作品発表会	1,070,000	1,070,000	0
過年度研究集会	20,000	20,000	0
法人会計	(178,000)	(178,000)	(0)
特定資産運用益	(2,000)	(2,000)	(0)
特定資産運用益	2,000	2,000	0
雑収益	(176,000)	(176,000)	(0)
受取利息	1,000	1,000	0
雑収益その他	175,000	175,000	0
経常収益計 (B)	2,513,000	2,513,000	0
[経常費用]			
実施事業会計	(1,920,000)	(1,810,000)	(110,000)
調査研究事業	(740,000)	(650,000)	(90,000)
調査研究事業	740,000	650,000	90,000
表彰・顕彰事業	(760,000)	(760,000)	(0)
表彰関係事業	720,000	720,000	0
設計競技事業	40,000	40,000	0
社会対応事業	(420,000)	(400,000)	(20,000)
文化事業費	390,000	370,000	20,000
展示事業費	30,000	30,000	0
その他事業会計	(2,235,000)	(2,035,000)	(200,000)
研究集会事業	(2,235,000)	(2,035,000)	(200,000)
支部研究発表会	885,000	885,000	0
建築作品発表会	1,350,000	1,150,000	200,000
法人会計	(6,345,000)	(6,293,000)	(52,000)
支部運営	(310,000)	(310,000)	(0)
総会	250,000	250,000	0
常議員会	40,000	40,000	0
その他運営費	20,000	20,000	0
事務運営	(6,035,000)	(5,983,000)	(52,000)
給与手当	2,140,000	2,130,000	10,000
退職給付引当金繰入	60,000	60,000	0
法定福利厚生費	365,000	360,000	5,000
福利厚生費	30,000	30,000	0
通勤手当	184,000	176,000	8,000

科 目	2020年度予算額	2019年度予算額	前年度比 (増 減)
旅費・交通費	20,000	15,000	5,000
通信・回線費	100,000	125,000	▲25,000
発送・運搬費	20,000	40,000	▲20,000
消耗品費	80,000	80,000	0
印刷費	75,000	55,000	20,000
会議費	15,000	15,000	0
地代・家賃	2,061,000	2,024,000	37,000
水道光熱費	660,000	648,000	12,000
支払手数料	30,000	30,000	0
賃借料	145,000	145,000	0
雑費その他	50,000	50,000	0
経常費用計 (C)	10,500,000	10,138,000	362,000
当期経常増減額 (A) + (B) - (C)	▲1,234,000	▲844,000	-390,000
当期一般正味財産増減額	▲1,234,000	▲844,000	▲390,000
一般正味財産期首残高	11,750,000	11,798,000	▲48,000
一般正味財産期末残高	10,516,000	10,954,000	▲438,000
指定正味財産期末残高	-	-	-
正味財産期末残高	10,516,000	10,954,000	▲438,000

<注記>

2020年度の「一般正味財産期首残高」は、2019年10月末時点における2019年度決算見込数値による

支部特定資産積立と取崩の実績と予定

(2019年度実績 2020年度予定)

	2019年度 特定資産積立・取崩 実績				2020年度 特定資産積立・取崩 予定		
	2019年度 期首残高	2019年度 積立	2019年度 取崩	2019年度 期末残高	2020年度積立	2020年度取崩	2020年度末残高
学術振興基金引当資産	4,670,000円	0円	0	4,670,000円	0円	290,000円	4,380,000円
支部基金引当資産	2,610,000円	0円	0円	2,610,000円	0円	0円	2,610,000円
災害調査研究基金引当資産	1,900,000円	0円	0円	1,900,000円	0円	0円	1,900,000円
退職給付引当資産	1,080,000円	60,000円	0円	1,140,000円	60,000円	0円	1,200,000円
合計	10,260,000円	60,000円	0	10,320,000円	60,000円	0円	10,090,000円

【2019年度 積立・取崩(実績)】

学術振興基金引当資産 特定課題研究委員会のための取り崩しなし。

退職給付引当資産 2019年度職員退職給付引当金として60,000円を積立。

【2020年度 積立・取崩予定】

学術振興基金引当資産 特定課題研究委員会「北海道の農漁村地域づくり計画の構築に関する研究」のため、90,000円を取り崩し。
建築作品発表会40周年事業のため200,000円を取り崩し。

退職給付引当資産 2020年度職員退職給付引当金として60,000円を積立予定。

◆法人正会員

会員社名・団体名

会員社名・団体名

伊藤組土建(株)	戸田建設(株)札幌支店
岩倉建設(株)	(株)巴コーポレーション
岩田地崎建設(株)	日鐵住金セメント(株)
(株)岡田設計	日本データサービス(株)
亀田工業(株)	(株)日本設計札幌支社
鹿島建設(株)	日本防水総業
(株)熊谷組	(株)三菱地所設計
(株)北海道日建設計	(株)アトリエアク
丸彦渡辺建設(株)	北農設計センター
大成建設(株)札幌支店	(株)中原建築設計事務所
宮坂建設工業(株)	(株)北方住文化研究所
(株)竹中工務店北海道支店	(株)ドーコン
五洋建設(株) 札幌支店	北海道建築設計監理(株)
東急建設(株) 札幌支店	北海道コンクリート工業(株)
(株)久米設計札幌支社	清水建設(株)北海道支店
(株)サンキットエーイー	(株)田中組
(株)コバエンジニア	(株)三暁プレコンシステム
(株)土屋ホーム	(株)北海道不二サッシ
(株)田辺構造設計	(株)アトリエブク
	(一財)北海道建築指導センター
	(株)フィールド

◆賛助会員

会員社名・団体名

北海道電力(株)
 星槎道都大学附属図書情報館
 北海学園大学附属図書館
 (株)総合資格



一般社団法人 日本建築学会北海道支部

〒060-0004 札幌市中央区北4条西3丁目1
北海道建設会館 6階

TEL.011-219-0702 FAX.011-219-0765

E-mail: aij-hkd@themis.ocn.ne.jp

<http://hokkaido.aij.or.jp/wp/>